

美容業界で生きていく。

高校生・保護者

高校教諭

美容専門学校生

美容専門学校教諭

に聞いた

美容業界で 働くということ。

美容の仕事に
就きたい？

労働環境の
イメージは？

結婚・出産後も
続けたい？

どんなサロンで
働きたい？



エステティシャン



美容師



ネイリスト

Beauty 総研

by

B HOT PEPPER
Beauty

データと声からみえた、
美容業界で働くということ。

はじめに

美容業界が抱える課題に対して、
私たち「ビューティ総研」が出来ること。

美容業界の経営者の方から、
「人が採用できない」という相談を受けることが最近多くなりました。
慢性的な人材不足と言われて久しいですが、
特に「新卒採用」を取り巻く環境が厳しくなっているように感じます。

本冊子では、美容業界に入る前の段階である高校生やその保護者、
指導をする教育現場の方々、美容専門学校生など、
「美容業界の入り口」に立っているさまざまな立場の方に
調査・インタビューをしました。
そして、それぞれの視界から見えた「美容業界で働くということ」に、
スポットをあてて紹介しています。
「美容業界が、よりよい業界になっていくために、今何ができるのか……」
そんなことを考えながら読んでいただけると幸いです。

少しでも多くの方に、美容の道に進んでほしい。
そしてそこで働く人たちが、いきいきと、長く、幸せに働けるように。
美容業界が魅力的な世界となり、世代を超えて繋がっていくように願って。

2015年1月 ビューティ総研

P5～ 人口減少、美容専門学校への入学者減
人材不足の実態

P6～ 高校進路指導教諭の声から

P7～ 美容専門学校・
学生募集責任者の声から

P8～ 高校教諭×美容業界
情報交換会

P10～ 高校生・保護者からみた、
美容業界

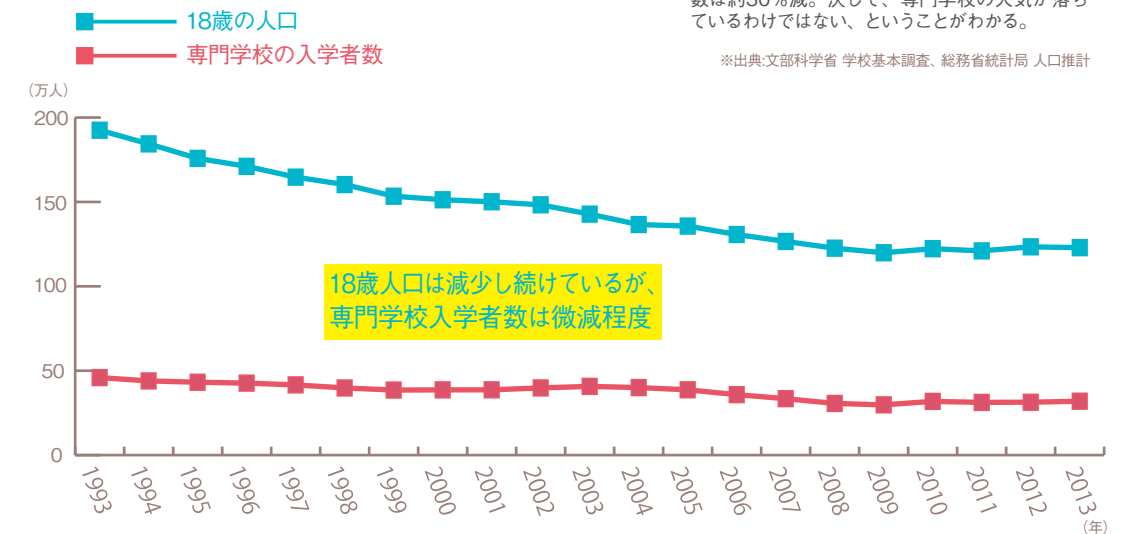
P14～ 美容専門学校生からみた、
美容業界

人口減少

美容専門学校への入学者減 人材不足の実態

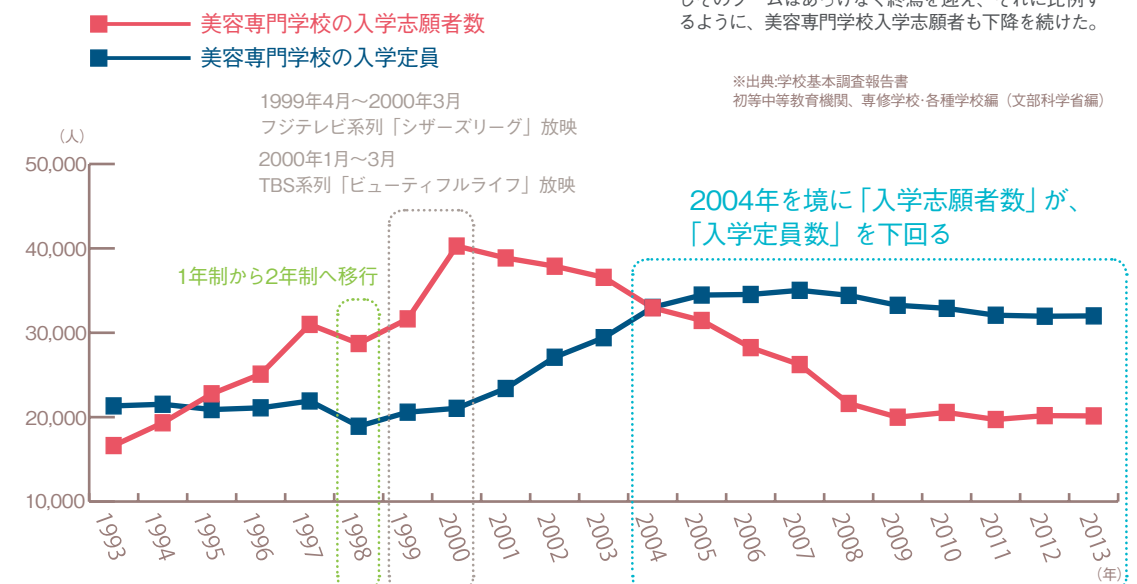
まずは「18歳人口と専門学校入学者」の推移をグラフで。次に「美容専門学校の入学定員と志願者数」の変化を経年で見ていきます。

「18歳人口」と「専門学校全体の入学者数」推移



「専門学校入学者数」が微減なのに対して、「美容の専門学校入学志願者数」は？

美容専門学校の「入学定員」と「入学志願者数」推移



高校進路指導教諭の 声から

※出典:2011年12月
「ビューティワールドへの入口調査」
ビューティ総研調べ



※写真はイメージ

「一流の美容師とは、
カットの技術だけではなく、
日々新聞の全国紙を3紙くらい読んで、
どんな人とでも話を合わせることが
できるような人なんだよ」
ということをよく話す。
それも含めてがんばりたいという
意志を持っている生徒は、
安心してその道へ送り出せる。

ネイルやエステ希望者には、
美容師の資格をとって、
そのうえでネイルや
エステの勉強をした方が
将来的にいろいろな道に通じると
指導している。

美容師として、
女子はわりと何歳になっても、
たとえ自分でお店を持たなくても働いていけるようだが、
男子に関しては40歳を超えると
お客がなかなかつかなくなってくると聞く。
そうすると、自分でお店を経営するしかない。
美容師さんから「もし生徒さんで美容師を目指す男子生徒がいたら、
40歳くらいまでに自分のお店を持つという目標を持ってがんばれないと、
美容師として働き続けることは難しいという話をしてほしい」
と言われる。
美容師になりたいという男子生徒には、
「長期的なことも考えて決めているか？」
という指導を特にしている。

理美容系を目指す生徒は、
人の役に立ったり
人に喜んでほしいという
志向が強い生徒が多い。

理容師については、
高校生に仕事の魅力が
伝わっていない。
最近は男性も美容室に通っている人が
増えてきているので、
高校生にとって
身近に感じられないのかもしれない。

自分が満足できる「作品」として
お客さまのヘアやネイルをしていきたいという
「他者よりも自分の方に軸が向いている思考」は、
最近の高校生の傾向。
面接練習の時にいろんな方面から
生徒に質問してみると、
自分の見方でしか物事を捉えられていない。
立場を変えて想像してみようという
コミュニケーション能力の欠如を感じる。
それだけ、人とぶつかって育ってきていない
のかなと思う。

美容業界への進路を希望する生徒に対して
どんな指導をしているのか。また美容業界
がどのように見えているかを聞きました。

Interview

一方、受け入れる側の美容専門学校の担当
者は？学校の立場としてはもちろん、サロン
側が抱える課題も含め、お話をいただきました。

Interview

美容専門学校・ 学生募集責任者の声から

※出典:2011年12月
「ビューティワールドへの入口調査」
ビューティ総研調べ



※写真はイメージ

高校の先生の中の
美容業界のイメージは
古いまま。
今は、美容室でも社会保険等が
しっかり完備されている
サロンもあるという事は、
知らなかったりする。

人の採用や育成については
全く知らないという
オーナーが多い。
独立したので人を雇いたいのだが、
どうしたらいいかという相談もよくある。

今、入学してくる学生の
「自分の将来に対するイメージ」は、
長くても5年くらい先までしかない。

専門学校を卒業しても、
就職しない人もいる。
保護者も、
子どもが2年学校に通って
無事卒業したというだけで、
満足している場合がある。

学校から見ると、
サロン側の育て方が悪いから
育たないように見えるが、
サロン側から見ると、
現場で育つように
学校で教育していない
という風に見えるのだと思う。

美容師養成だけでなく、
ネイルやメイクなどの
トータルビューティーのコースが
最近増えてきているのは、
学校の考えではなく
高校生の
学びたいニーズに
合わせたもの。

辞めていく人が多いという事は、
雇用条件が今の若者に合っていない。

サロン内でコミュニケーションが
とれていない事が辞める原因のひとつ。
今は「背中を見て感じる」
という時代ではない。
見習いは背中を見ていないし、
見ていたとしても
感じる事ができない。

誰もがどんな店にも順応して
上手くやっていけるのなら
専門学校はいらない。
仕事への意識づけをすることも
技術を教える事とともに
学校の大きな役割だと考えるが、
そう考えていない学校も
あるかもしれない。

【参加者】
高校教諭6名
ヘアサロン経営者4名
美容業界関係者6名
ビューティ総研
開催日：2012年3月

スタート！

高校での進路指導は？ 業界はどう見られている？

ビューティ総研 我々は常々「美容業界の良さ」を高校生や保護者の方々、学校の先生方にわかってもらいたいという思いと、逆に今の高校生が置かれている状況をもっと美容業界の皆さんにも知ってもらいたいという思いがありました。本日は双方のお話をうかがいたいと思っています。まずは、美容業界への進路指導の状況をご説明いただけますか？

高校教諭A 大学進学率を上げたいと、校長先生たちは「大学進学」に重点を置いているところもある。しかし美容系の専門学校に進学する生徒もコンスタントにいます。生徒たちの美容師のイメージは「おしゃれでかっこいい。だけど大変そう、辛そう、手が荒れそう」…必ず最後にそんな言葉がついてきます。人気職種は公務員。我々が一生懸命、どんな職種があるか広く調べなさいと言っても、そんなに数を知らない。保護者も知らない。基本的に保護者が言っていることが子どもに伝わって、そのままの印象で子どもは物事をとらえる。これは教員も同じ。教員も現状を全然知らないまま、話をするんです。この業界は大変、この業界も大変、そういった時に、比べたりもしていない。だけどなぜか「美容師だけ辛そう」というイメージなんですよね。だって他の仕事だって大変でしょう？その仕事の具体的な辛さを、教員がわかっていないんです。

高校教諭B 美容院に行く時ってどんな時だろう？と生徒と話していて。例えばお見合いの前、子どもの入学式、結婚式の前…「**それぞれの人のアルバムに残るような仕事**」。それには、そのアルバムを飾るだけの

技術がないといけないね、という話に行き着いた。だからそれを学ばなければならない、そこをがんばらなきゃいけない、と。うちの学校で美容師になりたいという子どもたちは、成績に関係なく行きます。クラスのトップ3の子たちも行く。そのうちのひとりが言うには、「辛いことを教えてほしい」と。楽しいことはわかるので、どこが辛いのか、どこがやりがいなのかを知りたいと言っていた。卒業生講話会でも、ひとつのウィッグをどんなに大事に使うか、ポケットにはいつも手帳が入っていて、先輩や上司の言葉を聞き漏らさないようにしているだとか。そんながんばりを見ると、本当にうれしいものです。

高校教諭C PTAなんかでもよく聞くのですが、保護者が「大学に行ってもしょうがないからお金出したくないけど、専門学校で資格を取るならお金を出してもいいよ」という話をするようなんです。親が安定志向・資格志向というのがよくわかります。

サロンでの取り組み。そして続けたからこそ見えるもの。

ヘアサロン経営者A 美容業界はもちろん、各業界で人材不足と言われています。僕たち現場でやっている、やっぱり人材だと思ってます。ただそこで受け入れる側が「育み方」をわかっていないと育めないだろうな、と。もともとある能力が活かされていないというのが、自分たちの組織で取り組んでいる問題です。今の若い人たちが言う「安定・安心・安全の結果を得たいからこの選択をする」ということが、果たして本当にそれでいいのかな？と。自分の心や感情・意識、「あ、これすごく楽しい！」とかそういう「心の選択」が大事だと思います。これは

美容業をやっていると感じるのですが、「売り上げを伸ばさなきゃいけないからたくさん仕事をしよう」ではなくて、「目の前のお客さまを素敵にハッピーにしてあげたいな」と思う方が良い結果が生まれる。やっぱり美容業は素晴らしい仕事。「心」を伝えられる仕事なんですよ。

ヘアサロン経営者B 私のところでは専門学校卒業後の資格を取った子も、高校卒の子も採用しています。専門学校の教育自体が、高校生の親御さんや本人の考えからすると負担が大きいというのがあるんですね。美容学校は2年間で200万、300万かかる。この金額は地方のデータなので首都圏では当てはまらないかもしれませんが。同じ国家資格を取るものでも、看護系や教員などは3年間のうち1年間は実習をして、現場対応ができるようになってようやく資格を取ることができます。でも、美容学校は体質が変わっていない。1年制が2年制にはなったけど、内容は変わっていないのでは？専門学校時代に現場の基礎がきちんとできていれば、即戦力になれるわけです。今は「ある程度のレベルを認められて採用される」というベースができていないので、うちでは職業訓練校という形をとって、教室を設けながら、営業中でも日中レッスンができるようなシステムがあります。

ヘアサロン経営者C 女性美容師が長く仕事を続けていくうえで、サロン側にもいろんな問題があると思うんです。その壁に私たちも今ぶち当たりながら、「一人ひとりのパートナーに合わせた働き方」というのが大切になってくると思います。

ヘアサロン経営者D 自分が美容師をしていて何が素晴らしいと思うかというと、目の前でつくったものをその場で感謝されて、10年・20年・

30年と、おばあちゃんになるまでずっとつながっていける。これって、続けないと見えてこない。10年経ってやっとわかるようなことなんです。

美容業界関係者A いろんな若い美容師さんとお話して最近すごく感じるのは、「自分が育っていく」というより、どちらかというと「お店が自分を育ててくれる」とか「お店のカリキュラムをこなしていった、その後にデビューが待っている」と思っている方が多いかな。サロンにそういった教育カリキュラムが整っていることも大事ですが、やっぱり美容師は「自分自身を高めていく職業」だと思うので、自発的に育っていくという意識がすごく大事です。

最近の若者の特徴と、今後の課題は？

高校教諭D 専門学校に進む子の方が、大学志望者よりも真面目になってきているのが最近の傾向です。以前は、専門学校に進む子は遊び半分という感じがあって逆だった。美容の話でいうと、エステやネイルなどの「トータル美容」に興味がある子がとても多い。我々の勉強不足なんですけど、美容師は資格という意味で把握していても、エステやネイルなどのトータル美容ということになると、だんだんこちらわからないことが出てきてしまうので、指導に行き詰まることもあると思います。

高校教諭E 私が美容学校志望の生徒と話した時に、「学校を出ても、一人前になるには10年かかるよ」と言ったんですね。生徒や保護者は、資格を取ったらそれでやっていける、安泰だと勘違いしているんです。一人前になる前に辞めちゃう子もいるという話で…。でも私の生徒で、

生徒の就職の悩みに向き合っている「高校教諭」、そして実際の現場で働く「ヘアサロン経営者」、美容専門雑誌などに関わる「美容業界関係者」で、意見交換会を実施しました。

「自分は美容師になって、将来老人ホームで髪を切る仕事をしたい」という子がいて、すごいなと思いました。今の子たちって、結果をすぐに求めるんですね。だから「美容師は、すぐに結果の出る仕事ではないかもしれないけど、ずっと成長できる仕事ではないか」という話をしました。

美容業界関係者B 経営者の意識がすごく変わってきていると感じます。休みの部分、あとは待遇などわりと一般企業に近い待遇に変えていきたいということで、サロンの改革をされている方が多い。待遇を気にされる生徒さんが多いというお話を聞くんですけど、現場の先生たちから見て、実際どれくらい気にされる方がいるのかというのが知りたいです。

高校教諭A 生徒たちは「休み」を一番気にします。でも、待遇面で今お聞きしたような流れがあるんだったら、その情報を高校側にどんどん伝えてもらわないと、前の情報のままですって流れていっちゃうんですね。そうすると実際は改善されていても、悪い情報のまま残ってしまう。

美容業界関係者C 本来会社で教わるノウハウと、自分の体にたたき込む、向上するための練習は別で、「訓練」の領域だと思うんです。そのトレーニングのためにサロンの場所を提供してきたのが、「残業問題」になっているんじゃないかと思います。また美容従事者は、指名されることが幸せにつながるということもありますよね。この指名制がある職業って特殊です。指名されているのは「自分の技能」、資格とは別なんです。

高校教諭B 資格志向も、安定・安心志向だと思っていたんですが、「国家資格というのは、私が社会に必要とされている証だから欲しいんだ」という子がいて。「むしろ私たちの

方が、生徒の話を聞くべきだ」と、その時に思いました。

美容業界関係者D 今は、なり手が減っているから頭数を増やすことに目が行きがちなんですけど、美容室に就職して、まもなく辞めてしまうという方が大半。せっかくになった美容師さんが辞めないように、美容の道から外れていかないように、進路指導の段階からズレがないようにしていただけたら、と思いました。

美容業界関係者C 美容業界は50万人ほどいる業界で、メーカー、ディーラー、専門誌、美容学校、美容室の5種で構成されています。高校の先生は、もしかしたら美容業界を、「美容学校」で見ているのでは？どんな業界でも「入口」に問題があると、その業界はなかなか発展しない。なんで1年制だったものを2年制にしたの？なんでそんなに授業料が高いの？なんで立派なビルがどんなできちゃうの？…と。先生方はそういう一部の美容学校と接触する中で、美容業界を見ているかもしれないということを、今日感じました。

ビューティ総研 お互い、まだまだ伝わっていない部分がありますね。ビューティ総研としても、それぞれをつなぐ橋渡しの存在になりたいとあらためて感じました。みなさん、貴重なお話ありがとうございました。

まとめ

それぞれの立場の方からみた「美容業界」。そこには解決しなければいけない課題もありますが、ただ単に「お互いの思い・現状が伝わっていないだけ」という側面もありそうです。現場での新しい取り組みなどを発信していく必要性を強く感じるとともに、お互いが理解し合うことの大切さを実感した場となりました。

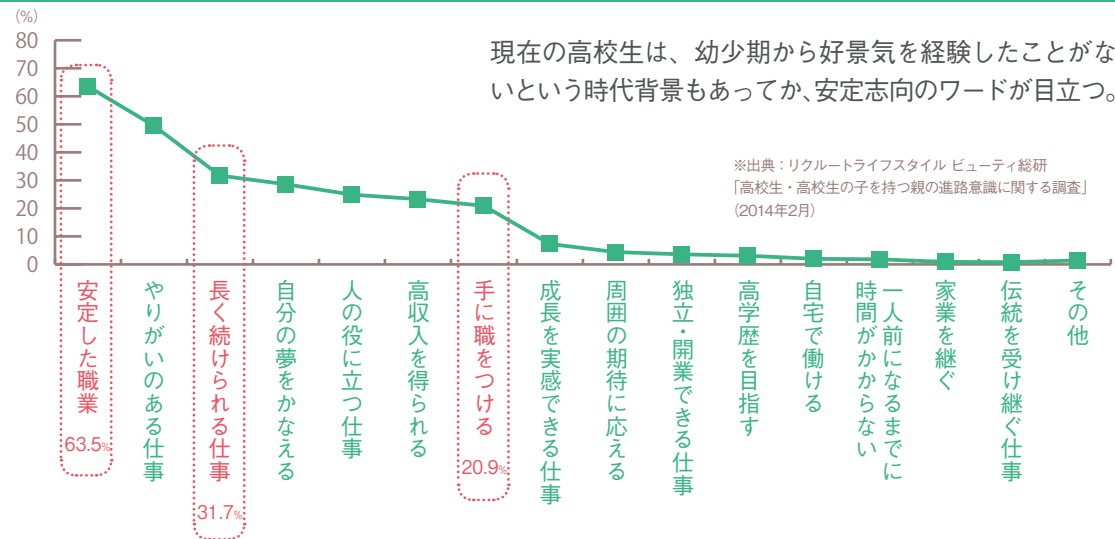
高校生・保護者 からみた、美容業界



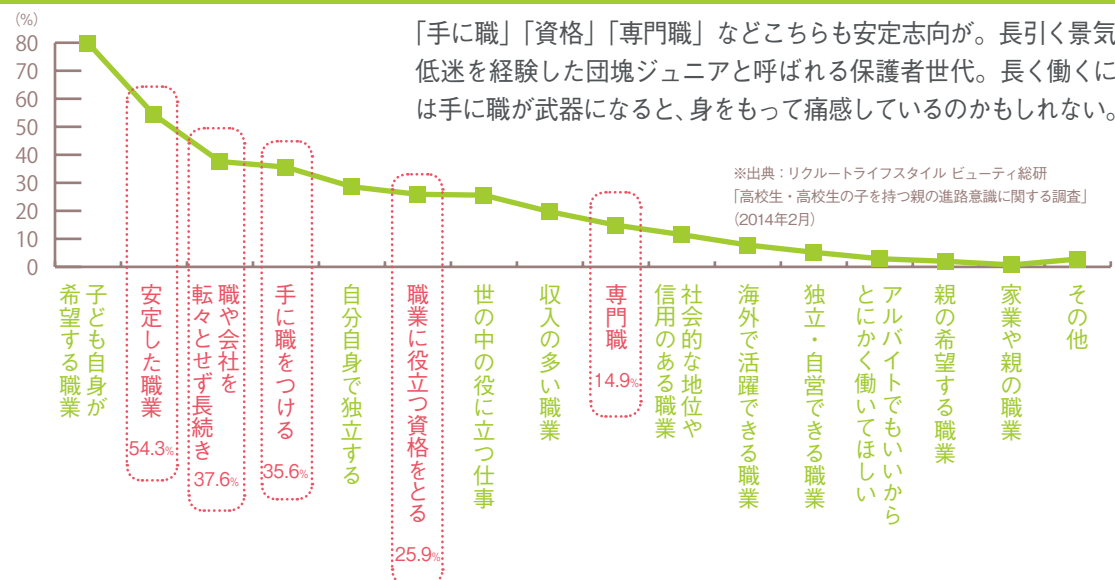
※写真はイメージ

「高校生」からみた美容業界は？
高校生自身と、高校生の子を持つ
保護者、双方の意識を調査しました。

Q 高校生に聞いた 進路決定の際の重視点は？（複数回答）



Q 保護者に聞いた 子どもの将来の職業に希望することは？（複数回答）



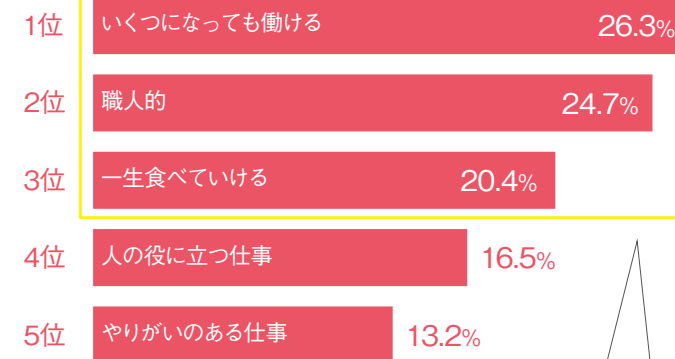
Q 保護者に聞いた 子どもが美容の仕事に就くことは？（複数回答）

※ここでいう「美容の仕事」とは、美容師・エステティシャン・ネイリスト・アイリスト・メイクアップアーティスト・美容家など「美容に関連する職業全般」です

実際に子どもが美容の仕事に就くとしたら。
賛成？反対？その理由についても聞きました。

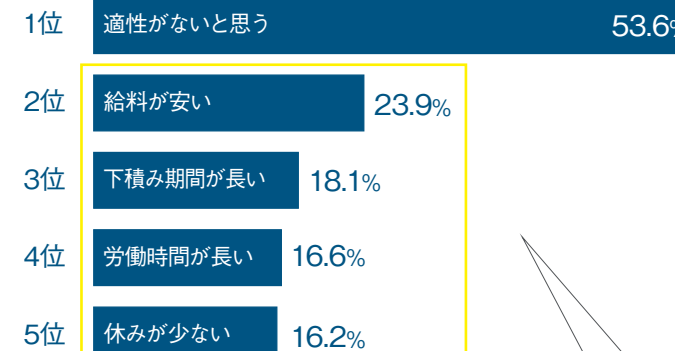
賛成派の理由

※出典：リクルートライフスタイル ビューティ総研
「高校生・高校生の子を持つ親の進路意識に関する調査」
(2014年2月)



これからは「専門性」「手に職」が求められる時代？
「いくつになっても働ける」「職人的」「一生食べていける」といった項目が上位。「人の役に立つ」「やりがいのある」と社会的な役割としての職業と捉える人も。

反対派の理由



「労働環境に対する不安」が強い？
トップは「適性がないと思う」という、子ども自身に関する理由だが、2位以降はおもに「労働環境に対するネガティブイメージ」が理由となっている。

時代で変化する 高校生が就きたい職業

高校生が就きたい職業がどう変わったか。その中で、「美容師・理容師」の順位はどう変化した？

※出典：一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査
「高校生と保護者の進路に関する意識調査」
(2005年、2013年)

2005年と2013年を比較！

2005年

【男子】

- 1位 公務員（国家・地方）
- 2位 技術者・研究者
- 3位 教師
- 4位 整備士
- 5位 医者・歯科医師・獣医
- 6位 俳優・タレント・ミュージシャン

9位 美容師・理容師

【女子】

- 1位 保育士・幼稚園教諭
- 2位 看護師
- 3位 教師
- 4位 調理師・パティシエ
- 5位 公務員（国家・地方）

7位 美容師・理容師

2013年

【男子】

- 1位 教師
- 2位 公務員（国家・地方）
- 3位 技術者・研究者
- 4位 建築設計士
- 5位 製造・加工・組立

22位 美容師・理容師

【女子】

- 1位 看護師
- 2位 保育士・幼稚園教諭
- 3位 教師
- 4位 公務員（国家・地方）
- 5位 事務

22位 美容師・理容師

2005年、「美容師・理容師」は男子で9位、女子で7位と人気職業だった。しかし2013年になると、男子・女子ともに22位に下降。一方順位を上げたのは、男子では教師、女子では看護師。

Q

美容師・エステティシャン・ネイリスト

美容の仕事のイメージは？（複数回答）

高校生

VS

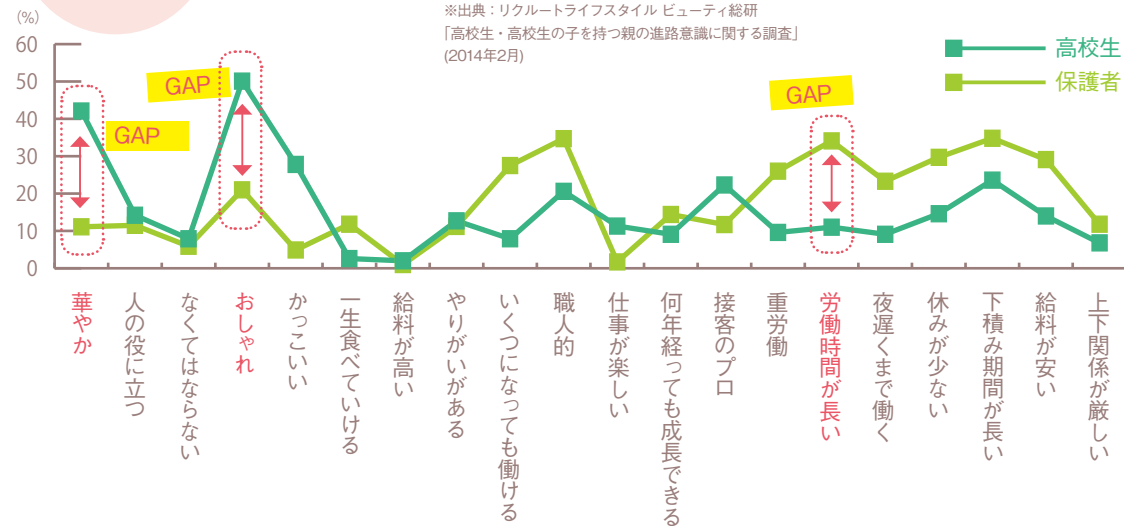
保護者

ひきつづき、高校生・保護者の調査から。それぞれが「美容業界に抱くイメージ」について、ギャップはどこにあるのか探ります。

美容師

高校生が思う美容師1位は「おしゃれ」、2位は「華やか」。一方、保護者は「労働時間が長い」「下積み期間が長い」「給料が安い」など、労働環境のネガティブな項目で数値が高い。

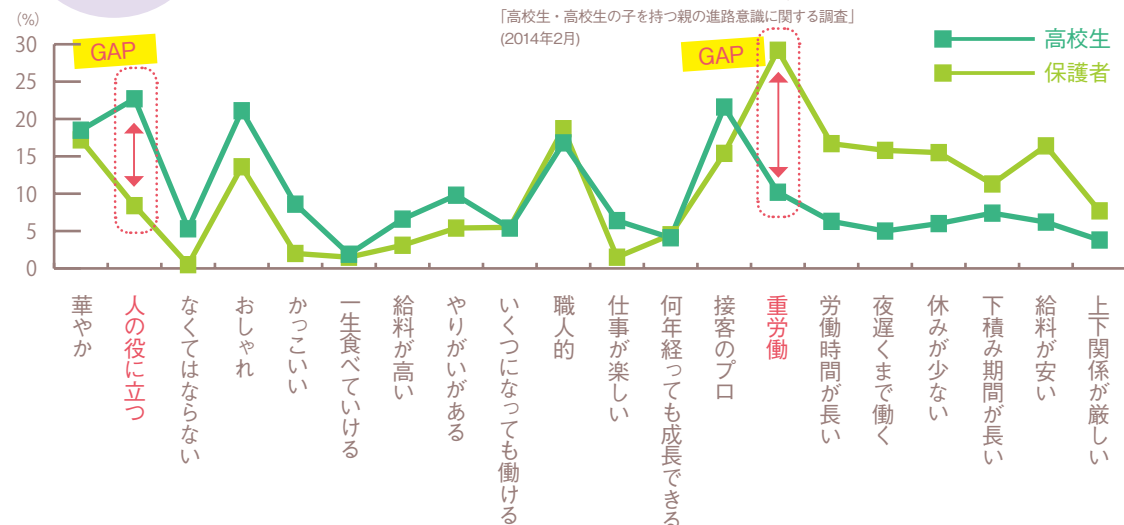
※出典：リクルートライフスタイル ビューティ総研
「高校生・高校生の子を持つ親の進路意識に関する調査」
(2014年2月)



エステティシャン

興味深いのは「人の役に立つ」「接客のプロ」が、高校生が抱くイメージのトップ2であること。一方、保護者は美容師のイメージ同様、労働環境に関する項目が総じて高い。

※出典：リクルートライフスタイル ビューティ総研
「高校生・高校生の子を持つ親の進路意識に関する調査」
(2014年2月)

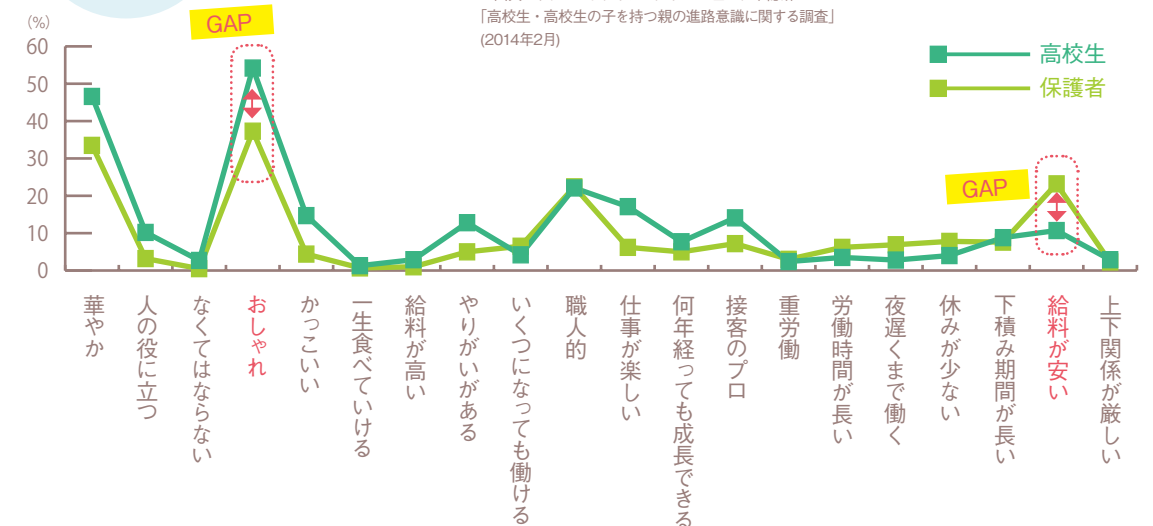


イメージのGAPはどこに存在するのか？

ネイリスト

「おしゃれ」「華やか」というのが、子・保護者ともに一致しているイメージ。多少差があるのは「おしゃれ」「給料が安い」だが、他と比べるとイメージのギャップは少ないと言える。

※出典：リクルートライフスタイル ビューティ総研
「高校生・高校生の子を持つ親の進路意識に関する調査」
(2014年2月)



まとめ

長引く景気低迷の中で育った今の高校生が、将来に安定を求めるのも無理はないかもしれません。内向き志向とも言われ、チャレンジすることに対して積極的ではない世代。一方、保護者は定年まで当たり前にも働けると思っていた時

代から、バブル崩壊やリーマンショック、リストラの波を経験。子どもの将来について「本人の気持ちを尊重」とする人が一番多かったものの、安定を求める気持ちと、美容職業の労働環境に関するネガティブイメージは否めません。

美容専門学校生 からみた、美容業界



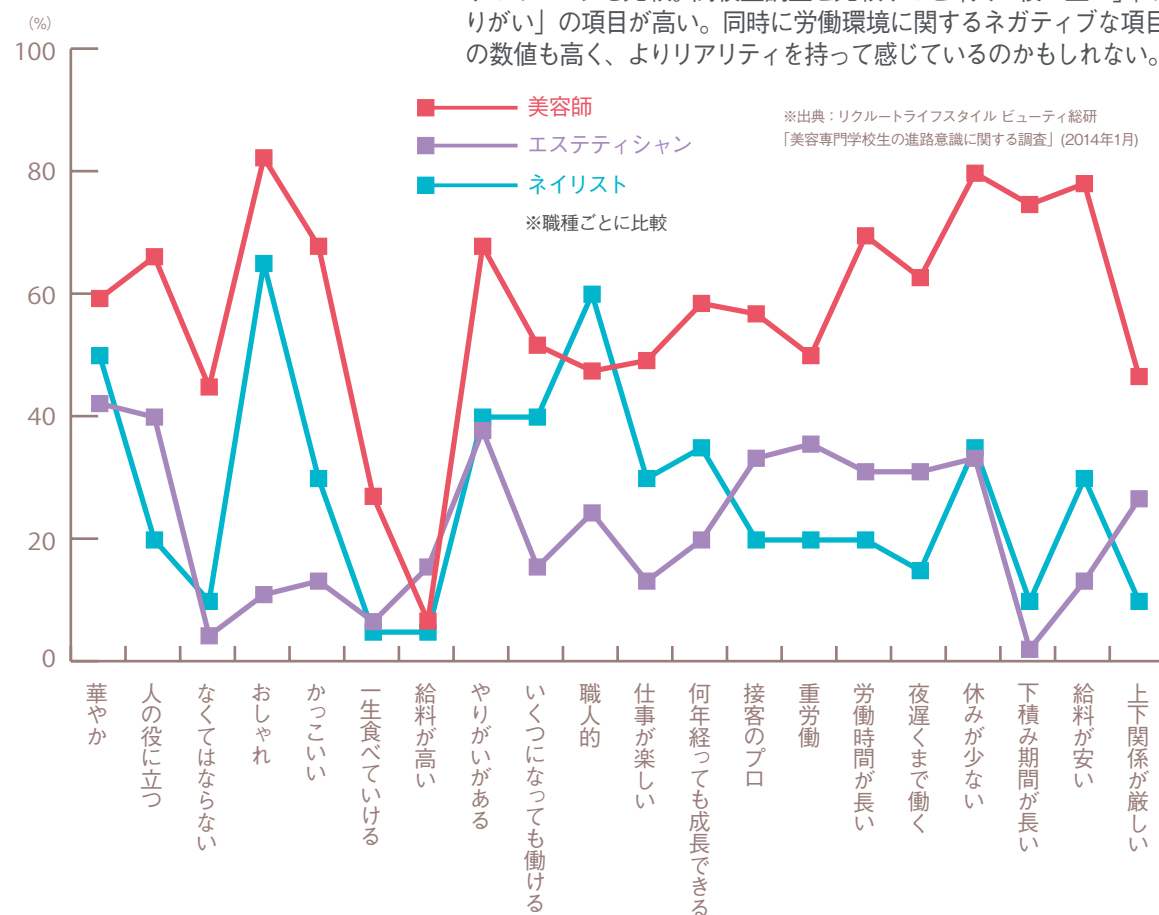
美容の道に一步進んだ美容専門学校生。美容職業に対してのイメージは、前のページで同じことを聞いている高校生と比べて、どこに違いがあるのでしょうか。

美容専門学校生に聞いた

美容師・エステティシャン・ネイリスト

Q 美容の仕事のイメージは？ (複数回答)

「美容師」「エステティシャン」「ネイリスト」、それぞれの職業に対するイメージを比較。高校生調査と比較すると「人の役に立つ」「やりがい」の項目が高い。同時に労働環境に関するネガティブな項目の数値も高く、よりリアリティを持って感じているのかもしれない。



美容師

- 1位 おしゃれ 82.2%
2位 休みが少ない 79.7%
3位 給料が高い 78.0%

エステティシャン

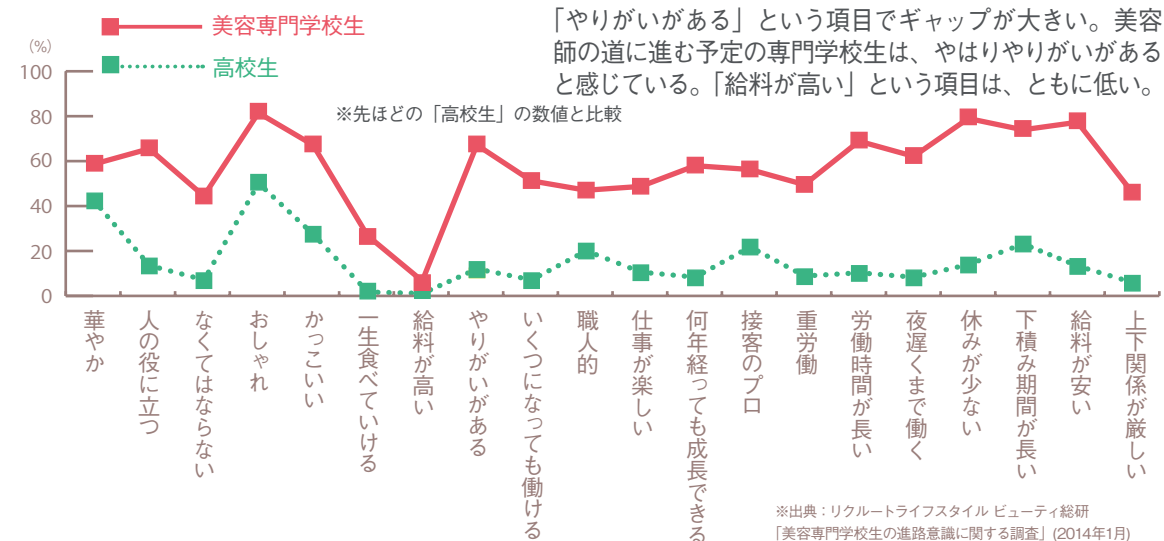
- 1位 華やか 42.2%
2位 人の役に立つ 40.0%
3位 やりがいがある 37.8%

ネイリスト

- 1位 おしゃれ 65.0%
2位 職人的 60.0%
3位 華やか 50.0%

Q 美容師のイメージ (複数回答)

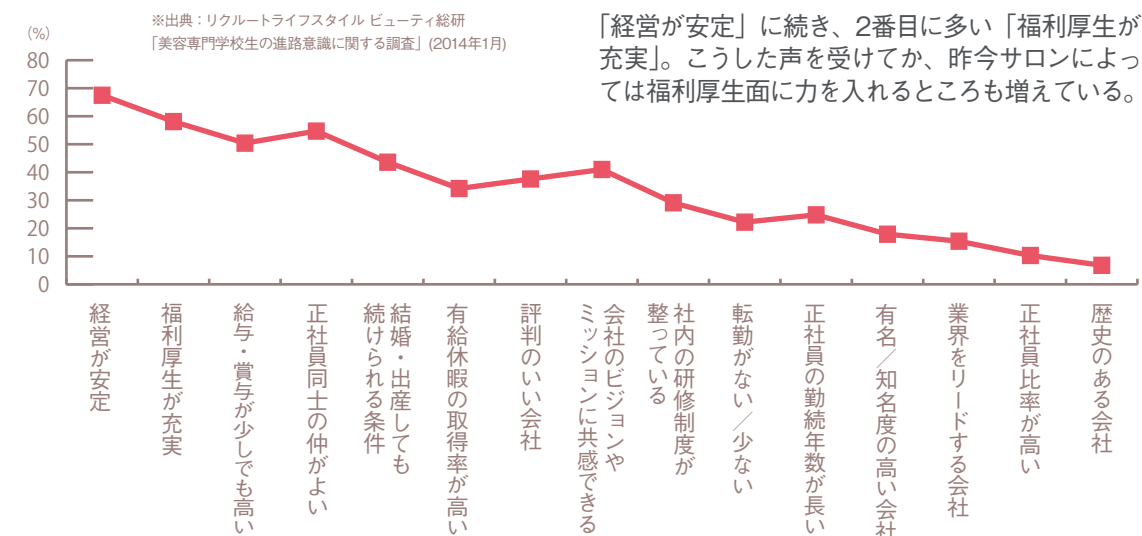
美容専門学校生に聞いた



「やりがいがある」という項目でギャップが大きい。美容師の道に進む予定の専門学校生は、やはりやりがいがあると感じている。「給料が高い」という項目は、ともに低い。

Q 働きたいヘアサロンの要素は？ (複数回答)

美容専門学校生に聞いた

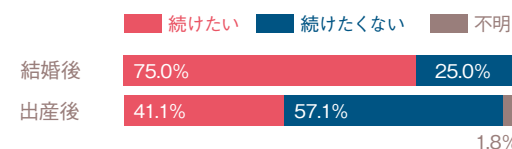


「経営が安定」に続き、2番目に多い「福利厚生が充実」。こうした声を受けてか、昨今サロンによっては福利厚生面に力を入れるところも増えている。

美容専門学校生に通う「女性」に聞きました

Q 結婚・出産後も続けたい？

Q 何歳まで美容師を続けたい？

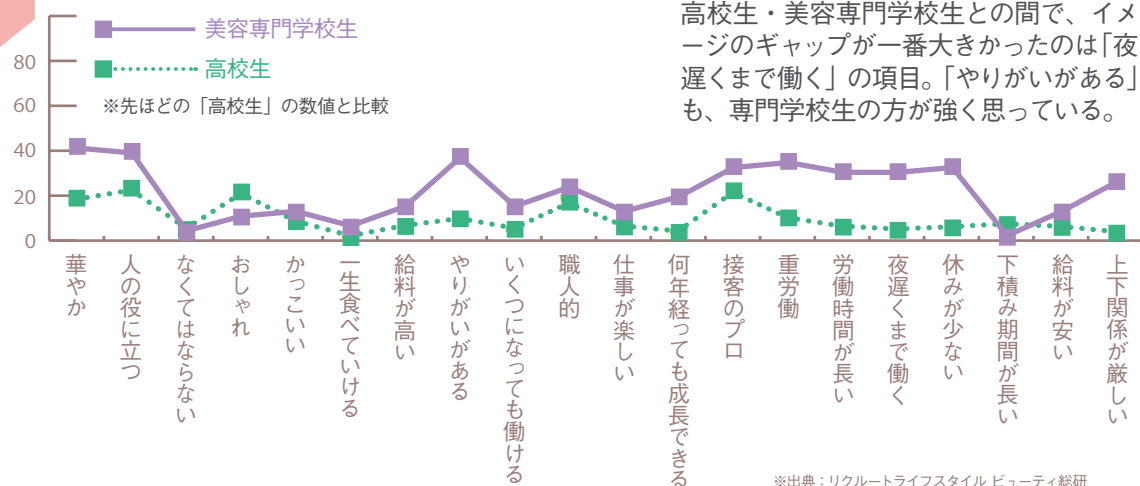


平均
41.8歳

40代の女性美容師の数は、現状かなり少ない。しかし希望としては「平均41.8歳」まで働きたいという結果に。結婚後も続けたい人は、実に75%にものぼった。

美容専門学校生に聞いた

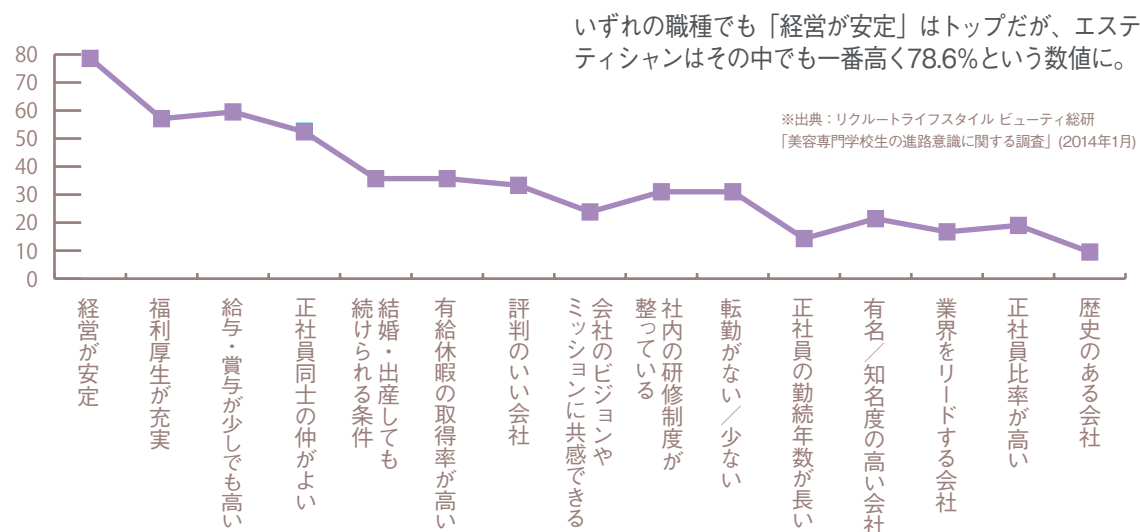
Q エステティシャンのイメージ (複数回答)



高校生・美容専門学校生との間で、イメージのギャップが一番大きかったのは「夜遅くまで働く」の項目。「やりがいがある」も、専門学校生の方が強く思っている。

美容専門学校生に聞いた

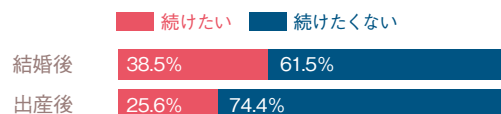
Q 働きたいエステティックサロンの要素は？ (複数回答)



いずれの職種でも「経営が安定」はトップだが、エステティシャンは中でも一番高く78.6%という数値に。

美容専門学校生に通う「女性」に聞きました

Q 結婚・出産後も続けたい？ Q 何歳までエステティシャンを続けたい？



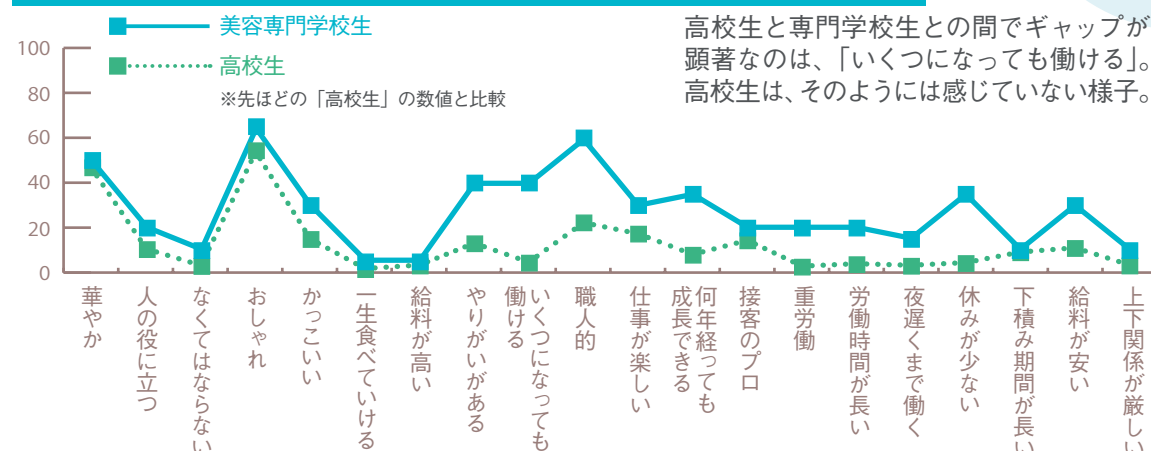
平均 37.7歳

一部施術に体力が必要である職種だからか、今回の3職種の中では「結婚後」「出産後」ともに、続けたい人の割合が最も低かった。

Q

美容専門学校生と高校生に聞いた

ネイリストのイメージ (複数回答)

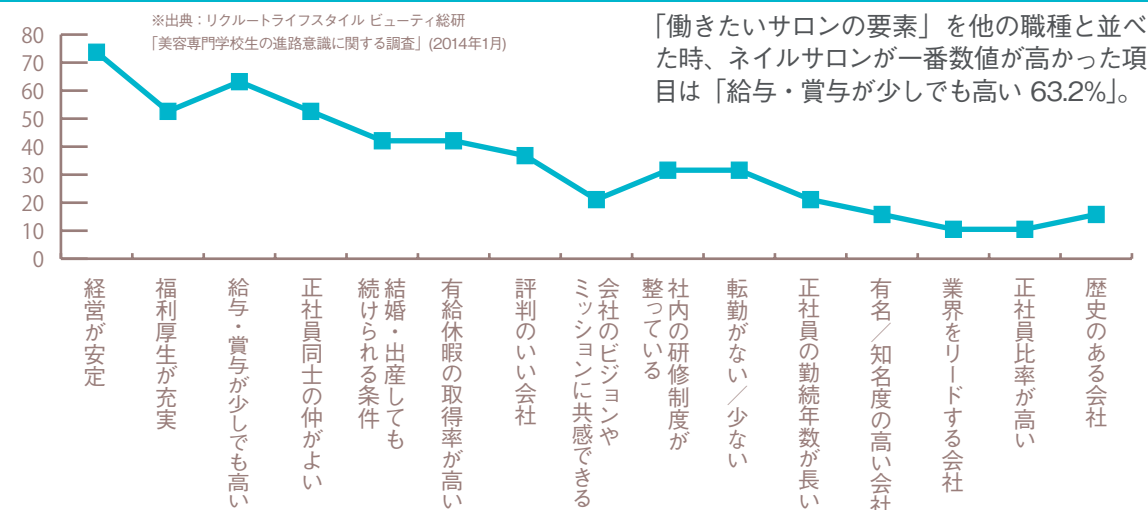


高校生と専門学校生との間でギャップが顕著なのは、「いくつになっても働ける」。高校生は、そのようには感じていない様子。

※出典：リクルートライフスタイル ビューティ総研
「美容専門学校生の進路意識に関する調査」(2014年1月)

Q

働きたいネイルサロンの要素は？ (複数回答)



「働きたいサロンの要素」を他の職種と並べた時、ネイルサロンが一番数値が高かった項目は「給与・賞与が少しでも高い 63.2%」。

美容専門学校生に通う「女性」に聞きました

Q 結婚・出産後も続けたい？

Q 何歳までネイリストを続けたい？



平均 39.3歳

「結婚後」「出産後」ともに数字は変わらず。ネイルは自宅でサロンを開業しやすいこともあってか、「出産後も働きたい？」の問いに対しては、他の職種に比べて最も高い数字に。

まとめ

将来の職業として美容という進路を選択し、専門学校に進んだ彼らだからでしょうか。高校生調査に比べ、「やりがい」「人の役に立つ」というイメージが高いのは、表面的な華やかさだけでなく厳しさも覚悟したうえで、美容の仕事の素晴らしさを見出しているように感じます。

しかし「サロンに求める要素」は高校生と変わらず、安定志向が垣間見えました。「何歳まで続けたい？」という質問には、美容師・エステティシャン・ネイリストともに平均値で「40歳前後」。理想では、「長く働きたい」と考える人が多いことがわかります。

おわりに

今回の調査・インタビューを進めていくうえで、
さまざまなことが見えてきました。
まず大前提として日本が抱える人口減少の問題。
くわえて、
労働時間や下積み期間の長さ、給与面などについてのマイナスな印象、
教育現場の方々への情報不足、
若者と保護者の間にある美容の仕事に対する意識の違い…など。

美容師・エステティシャン・ネイリストといった美容業に従事する職業に対して、
「人の役に立つ」「なくてはならない」といったポジティブなイメージもある一方、
残念ながら先にあげたように、おもに「労働環境」に対する
強いネガティブイメージがあることも分かりました。

そういったイメージについては、
全部が全部、誤解だとは言えないかもしれません。
業界側が、時代に合わせた環境整備をすることも必要だと思います。
しかし、我々は、美容に関わるたくさんの方々・サロンの皆様が課題と向き合い、
美容の未来を明るくものにすべく真剣に取り組む姿もたくさん見てきました。
そして思ったことは、「人を笑顔にできる、美容の仕事って素晴らしい」ということ。

この業界の素晴らしさがもっと若者や保護者、教育現場の方々に伝わるように、
美容の世界が輝かしい未来ある業界になるために。

ビューティ総研では、私たちに出来ることを、今後も全力で取り組んでいきます。

発行人：柏村美生
編集人：柳澤真実
企画・コピー：柳澤真実
デザイン：川野真知子
レンタルフォト：アマナイメーجز
印刷：東亜株式会社
発行年月：2015年1月
発行元：株式会社リクルートライフスタイル ビューティ総研
〒104-0031
東京都中央区京橋2-1-3 京橋トラストタワー
TEL 03-6835-1000 (代表)

非売品/Printed in Japan/無断転載・複製を禁ず
©株式会社リクルートライフスタイル
All Right Reserved Copyright
©2015 RECRUIT LIFESTYLE CO.,LTD.

私たちの取り組み

Beauty総研とは？

カスタマーの美容に対する価値意識、消費行動、顧客満足度向上、
周辺産業からのナレッジ提供などをテーマに、
美容業界に役立てていただけるような視点を発信し、
活動している組織です。

「美容業界の人材」というテーマに関して、
以下のような活動を行っています

調査

ビューティワールドへの入口調査 (2011年12月)
美容専門学校生の意識調査 (2014年1月)
高校生・高校生の親の意識調査 (2014年2月)

WEBサイトでの発信



<http://r-bmr.net/>

刊行物



美容師が
知っておきたい
50の数字
(女性モード社)



「うちの新人」を最速で
「一人前」にする技術
美容業界の人材育成に学ぶ
(講談社)



女性美容師として
生きていく。
Vol.1&Vol.2
(非売品)



一生離れない
お客さまをつくる方法
(女性モード社)

学びの場の提供



ホットペッパービューティー
オフィシャル経営支援スクール
<http://hba.beauty.hotpepper.jp/>

すべては、美容業界の成長のために。

